

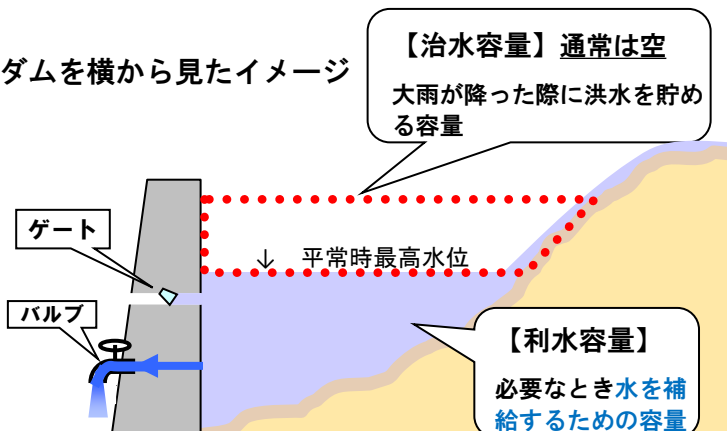
厳木ダム放流の解説(通常の放流～洪水調節)

○今回は、多目的ダムである厳木ダムの主な役割の一つである治水機能について、全般的な解説をします。

【厳木ダムの容量】

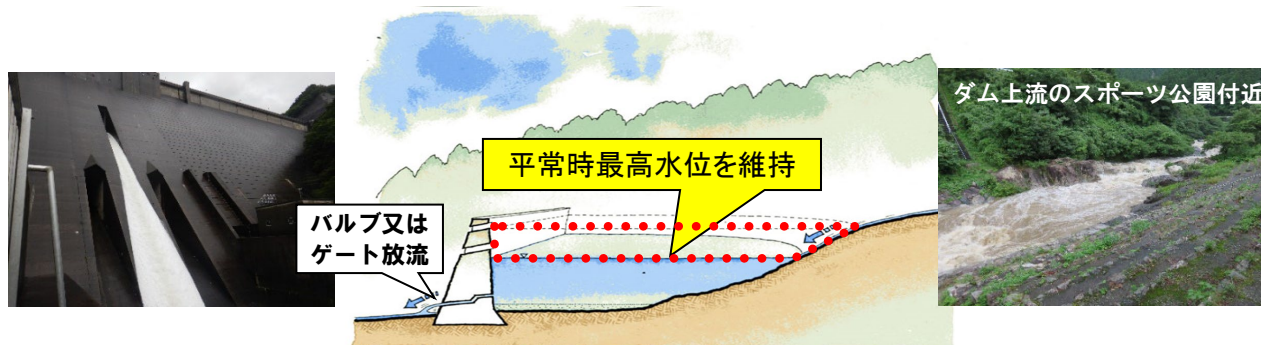


※ダムを横から見たイメージ

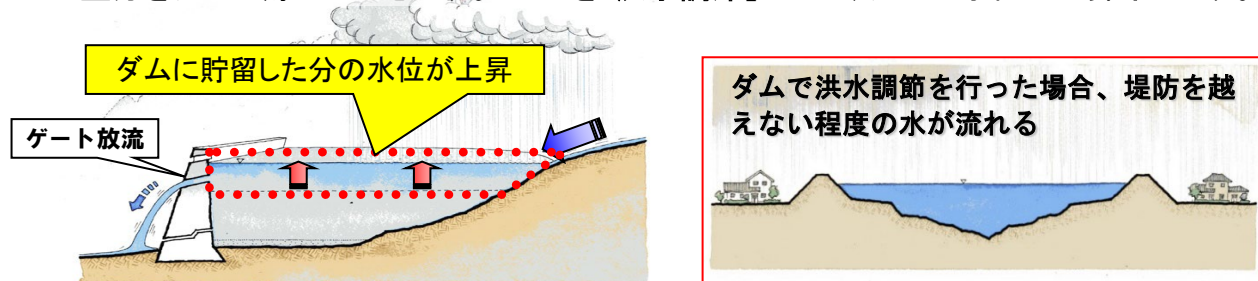


【厳木ダムの放流】

- ① ダムへの流入量が、 $80\text{m}^3/\text{s}$ 未満の場合、ダムに流入する量と「同じ水量」を下流に流し、平常時最高水位を超えないよう水位を維持します。



- ② ダムへの流入量が、 $80\text{m}^3/\text{s}$ 以上となった場合、 $80\text{m}^3/\text{s}$ を放流し続け、それを超える流量分をダムに貯めていきます。これを「洪水調節」といい、ダムの水位は上昇↑します。



※ なぜ「 $80\text{m}^3/\text{s}$ 」の放流量？

→ 厳木ダムからの放流で、厳木川の「無害流量」とされるのが「 $80\text{m}^3/\text{s}$ 」だからです。

「無害流量」とは？

ダム下流の地域に大きな被害を及ぼさない(特に住家)とされる流量です。貯水池への流入量がこの流量に達した時から「洪水調節」(無害流量以上の流量はダムに貯める)を始めます。

ただし、ダム下流域で局地的に強い雨が降った場合は、ダム下流域で氾濫が発生する可能性は否定できないので油断は禁物です。大雨が予想される場合は、情報を収集する努力をお願いします。

国土交通省
武雄河川事務所
厳木ダム管理支所

川ら版

発行所
武雄河川事務所
厳木ダム
唐津市厳木町広瀬446-4
(〒849-3111)
TEL(0955)63-2500
FAX(0955)63-2512
ホームページアドレス
<http://www.qsr.mlit.go.jp/kyuragi/>

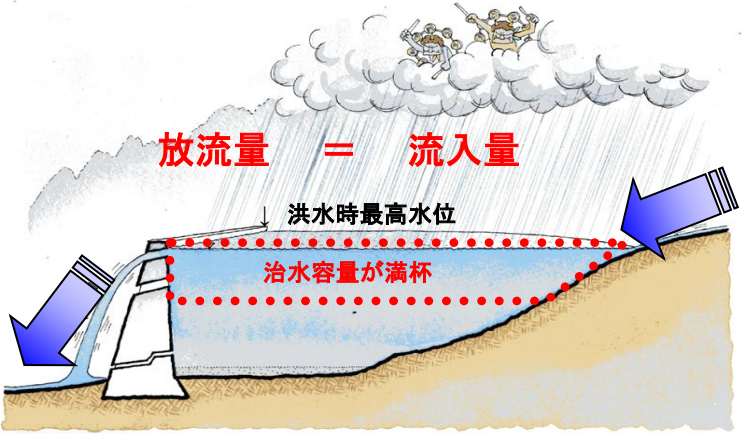
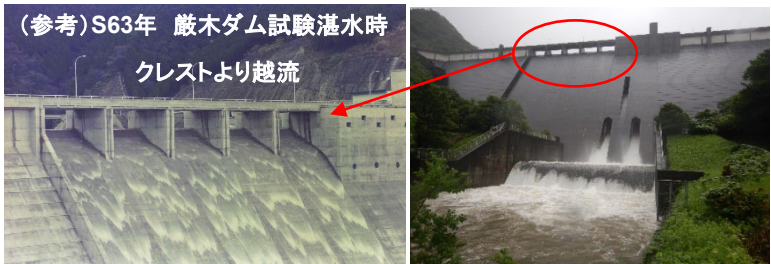
mlit.go.jp/kyuragi/

10月1日
第 23 号
紙面の問い合わせ
上記発行所へ

「川ら版」です。厳木ダムに関する情報や流域のみなさんへお届けさせていただきます。

厳木ダム放流の解説(異常洪水による「緊急放流」)

・ダムへの流入量80m³/s以上が長時間続き、ダム貯水位が上昇し、洪水時最高水位を超える場合、ダム放流量を流入量に等しくなるまで増加させます。（ダムがないのと同様の状態）



＊仮に、厳木ダムで満水となり、緊急放流を実施すると、クレスト(写真左)からの越流と合わせてコンジットゲート2門(写真右)から80m³/s以上の放流をします。



○ 緊急放流とは？

異常洪水により、ダムが満水となった場合、流入する水をダムで貯留できなくなり、ダム放流量をダムへの流入量と同程度とするしかなくなります。この状態を「緊急放流」と呼びます。
 近年、線状降水帯の発生が多く見られ、全国的にダムの緊急放流の実績が多くなっています。

○ 河川沿川の皆様に求められる行動

ダムで洪水調節することで下流部を洪水から守ってきた状態から、緊急放流をすることで下流部を守ることができない状態となり、水位が上昇し、氾濫するおそれが極めて高くなります。

住民の皆様においては、平常時に洪水ハザードマップ等でお住まいの地域を確認し、洪水時には自治体が発表する避難情報やダムの放流警報等を確認するなどしておき、**事前に安全な場所へ避難するなど、適切な防災行動**
~~を徹底していたら被害は抑えられた~~が発生した場合、放流量を最大140m³/sに抑えて洪水調節を行う事としています。しかし、現在は下流域の河川改修状況を考慮して、当面は放流量を最大80m³/sに抑えて洪水調節を行っています。この事により、本来の計画より治水容量を早めに満たしてしまうので、緊急放流実施の確率は高くなります。ただし、できるだけ緊急放流を回避するため、ダムの運用等の工夫を行ってまいります。

＊ 次回は、ダムの事前放流などの運用についても説明したいと思います。

お問い合わせは、武雄河川事務所 厳木ダム管理支所（TEL 0955-63-2500）までお願いします。

平成18年7月鹿児島県北部豪雨災害 鶴田ダム(鹿児島県さつま町)の「緊急放流」



ダム天端より下面を撮影

職員宿舎周辺の状況
宮之城町